

平成15年度 公共事業再評価調書(桧木内川 広域基幹河川改修 事業(桧木内川工区))  
 (事業着手後10年経過、着手後5年間未改修、再評価後5年経過、社会情勢の急激な変化)

評価確定日	平成15年 月 日
所管部課名	建設交通部 河川課

地区名	事業の概要	1 必要性の観点			2 事業進捗の見込みの観点				
		事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	事業の投資効果	[事業進捗の見込み]				
[河川名] 一級河川 ひのきないがわ 桧木内川 (箇所名) 赤平橋 ~宮田頭首工下流 [所在地] 仙北郡西木村 仙北郡角館町 仙北郡田沢湖町	[事業の目的] 赤平橋下流は、災害復旧助成事業(昭和47年~51年)で改修済みであるが、上流部は蛇行著しい原始河川であり、毎年のように家屋、耕地に甚大な被害を与えているため、住民の生命と財産を守ることを目的 [総合計画上の位置づけ] ・あきた21総合計画の中で快適で安全な生活を実現するため災害に強い県土づくりの一環として、河川改修等の推進が位置づけられている。 [事業の内容] ○延長 4,100m ○築堤 5,500m ○掘削 975,000m <sup>3</sup> ○護岸工 46,000m <sup>2</sup> ○事業期間 S58~H30 ○計画高水流量 1,200m <sup>3</sup> /s	[事業の経緯] S58年 事業採択年 S59年 用地着手年 S60年 工事着手年 H30年 完成予定年 [進捗状況] ○全体事業費 78.0億円 (内用地費 23.5億円) ○投資事業費 34.1億円 (内用地費 12.7億円) ○進捗率 43.7% (内用地費 54.0%) [長期継続の理由] 用地取得等に期間を要することや予算の制約上により長期化している。	[社会経済情勢の変化] ○災害発生時の影響(想定氾濫区域内) 浸水戸数 162戸 農地浸水面積 110.9ha ○過去の災害実績 最大浸水戸数 955戸(S47.7) 最大農地浸水面積 632.0ha(S47.7) ○災害発生時の危険度 改修目標流量に対する現況流下能力の割合 約18% [地域の状況] ○地域の状況 ①地域開発の状況: 秋田内陸縦貫鉄道、西木村門屋河川公園 ②地域の協力体制: 地元自治体は協力的である。 ③関連事業との整合性の変化: - ④地域の事業に対する社会的評価: 評価高い。 ⑤地元からは、浸水被害を防止するため、桧木内川改修の早期完成を求められている。 [環境対策] ・平成12年度に、事業区間を対象に動植物調査を実施し、環境の現状を明らかにしている。 ・現況河床や水際に手をかけずに、低水路の環境を保全する。 ・現地発生材の玉石を用いた護岸とする。	[整備効果] 完成区間について浸水被害が軽減されており、治水効果が発現している。 [費用の変化] 特になし [効果の変化] 想定氾濫区域内の人口及び資産の変化は少ない。 [費用対効果] <table border="1"> <tr> <td>再評価時</td> <td>1.68</td> </tr> <tr> <td>採択基準</td> <td>1.00</td> </tr> </table>	再評価時	1.68	採択基準	1.00	[事業進捗の見込み] 事業を進める上で予算上の支障が発生するため、コスト削減と合わせて事業の円滑な進捗を図る。 3 コスト削減や代替案立案等の可能性の観点 [コスト削減の可能性] 現地発生材の玉石を護岸材料に利用するなど、引き続きコスト削減を図りながら事業を実施する。 [代替案立案の可能性] 代替案立案の必要性はない。
再評価時	1.68								
採択基準	1.00								
再評価の結果		対応方針(案)及びその理由			公共事業評価専門委員会の意見				
中止		[対応方針(案)] 計画どおり、平成30年度の完成を図る。 [理由] 未改修区間が無堤であり、浸水被害が発生すると予想される地区が未だ多数あるため、早期に改修を実施する必要がある。 費用対効果も1.0を越えており、経済的にも妥当と判断される。							